

# Economic Indicators

発表日:2021年2月8日(月)

## 国際収支(2020年12月)

～12月の経常収支は前年を大きく上回る結果に。10-12月期は前期比で大きく黒字幅を拡大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

|      |     | 原数値<br>経常収支<br>(億円) | 季調値<br>経常収支<br>(億円) | 貿易・サービス収支 |        |        | 第一次所得収支 |
|------|-----|---------------------|---------------------|-----------|--------|--------|---------|
|      |     |                     |                     |           | 貿易収支   | サービス収支 |         |
| 2019 | 12月 | 5,449               | 18,839              | 3,306     | 1,805  | 1,501  | 16,654  |
| 2020 | 1月  | 6,617               | 16,721              | ▲1,208    | ▲615   | ▲593   | 19,318  |
|      | 2月  | 31,804              | 23,622              | 4,822     | 8,184  | ▲3,362 | 20,234  |
|      | 3月  | 19,595              | 9,218               | ▲4,691    | ▲1,407 | ▲3,284 | 14,955  |
|      | 4月  | 2,033               | 2,413               | ▲13,678   | ▲9,861 | ▲3,816 | 17,364  |
|      | 5月  | 10,796              | 7,229               | ▲8,692    | ▲4,921 | ▲3,771 | 17,925  |
|      | 6月  | 1,333               | 10,078              | ▲4,438    | ▲1,671 | ▲2,768 | 16,262  |
|      | 7月  | 15,415              | 10,426              | ▲1,882    | 666    | ▲2,548 | 13,441  |
|      | 8月  | 20,998              | 16,414              | 1,391     | 5,292  | ▲3,901 | 17,153  |
|      | 9月  | 16,498              | 13,360              | 4,130     | 7,584  | ▲3,454 | 16,063  |
|      | 10月 | 21,447              | 19,833              | 5,380     | 7,538  | ▲2,159 | 16,849  |
|      | 11月 | 18,784              | 23,393              | 7,207     | 9,974  | ▲2,766 | 18,988  |
|      | 12月 | 11,656              | 22,784              | 5,910     | 8,683  | ▲2,773 | 18,685  |

(出所)財務省「国際収支統計」

### ○12月の経常収支は貿易黒字を主因に前年比で大きく増加。10-12月期は前期比でさらに黒字を拡大

20年12月の経常収支(原数値)は11,656億円の黒字(コンセンサス:11,054億円の黒字、レンジ:5,485億円の黒字～15,771億円の黒字)とコンセンサスを小幅に上回る結果となった。また、季節調整値では22,784億円の黒字(前月比▲2.6%)となった。引き続き貿易収支が大幅な黒字となったことを主因に12月の経常収支は前年比+113.9%の増加、季節調整値でも2兆円を超える黒字となった。また、20年10-12月期の経常黒字は前期比+26.4%と大幅に黒字を拡大した。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、貿易・サービス収支は5,910億円の黒字(11月:7,207億円の黒字)と黒字幅が縮小した。サービス収支が▲2,773億円の赤字(11月:▲2,766億円の赤字)とほぼ横ばいで推移した一方、貿易収支が8,683億円の黒字(11月:9,974億円の黒字)と黒字幅を縮小させた。輸入が前月比+0.1%と横ばいとなった一方、自動車の輸出の増加一服などにより輸出が同▲2.0%と減少したことで、貿易収支の黒字は縮小に転じた。もともと、水準は依然として高く、経常収支の黒字をけん引している。

第一次所得収支は18,685億円の黒字(11月:18,988億円の黒字)と11月からほぼ横ばいとなった。第一次所得収支は引き続き高い水準を維持しており、経常収支の黒字を下支えする構図が続いている。

### ○2020年の経常黒字は2019年から大幅減少。サービス収支の赤字転化などが経常収支を下押し

同時に公表された2020年の経常収支は176,976億円の黒字(前年比▲13.8%)となった。内訳をみると、企業業績の悪化などの影響で第一所得収支が207,175億円の黒字(19年:213,954億円の黒字)

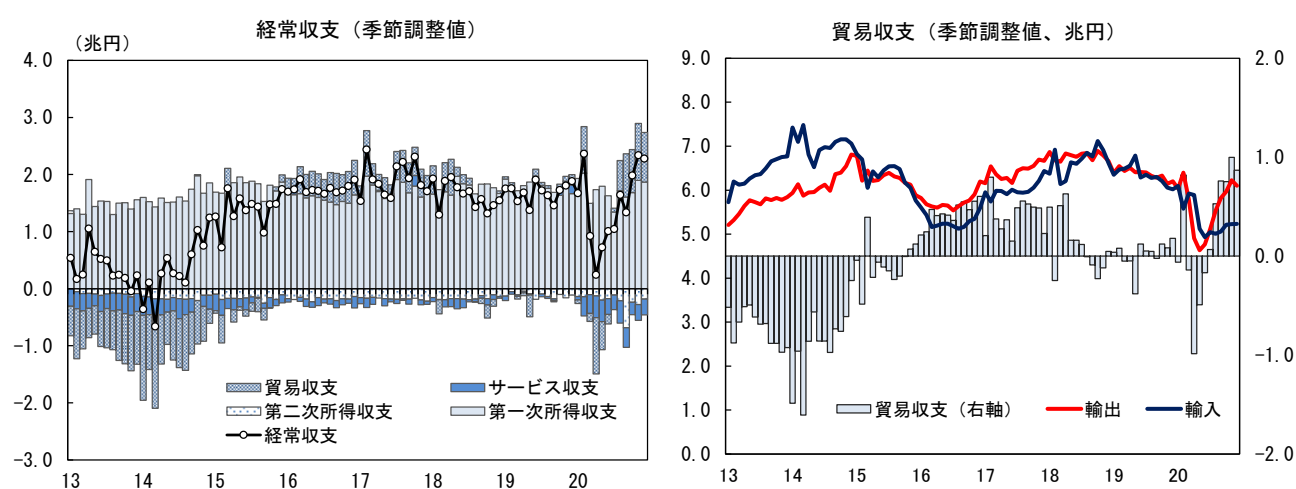
と黒字幅が縮小したほか、第二次所得収支が▲25,294億円の赤字（19年：▲13,755億円の赤字）と赤字幅が拡大、サービス収支は▲35,362億円の赤字（19年：1,248億円の黒字）と大幅な赤字に転じた。サービス収支は、訪日外客数の急減により旅行収支が5,621億円の黒字（19年：27,023億円の黒字）と前年から黒字を大幅に縮小させたほか、知的財産権等使用料の収支が16,059億円の黒字（19年：22,480億円の黒字）と減少したことで、大幅な赤字となった。一方、貿易収支は30,457億円の黒字（19年：3,812億円の黒字）と黒字幅が大きく拡大した。輸出が前年比▲11.4%、輸入が同▲15.0%と輸出入ともに前年を大きく下回ったものの、輸出が大幅に落ち込んだ4、5月以降、世界経済の回復を受けて堅調に持ち直したことで、貿易収支は前年を大きく上回る黒字となった。

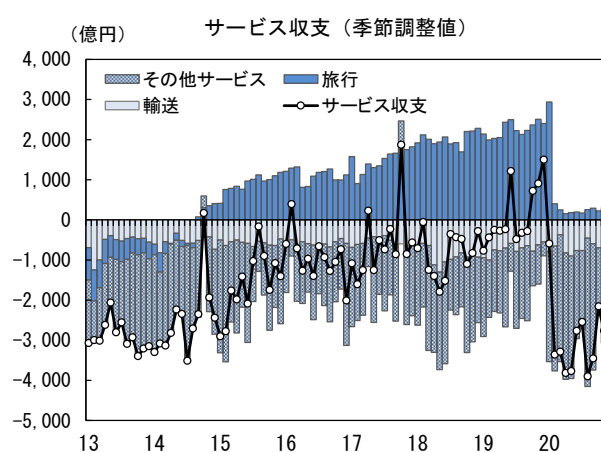
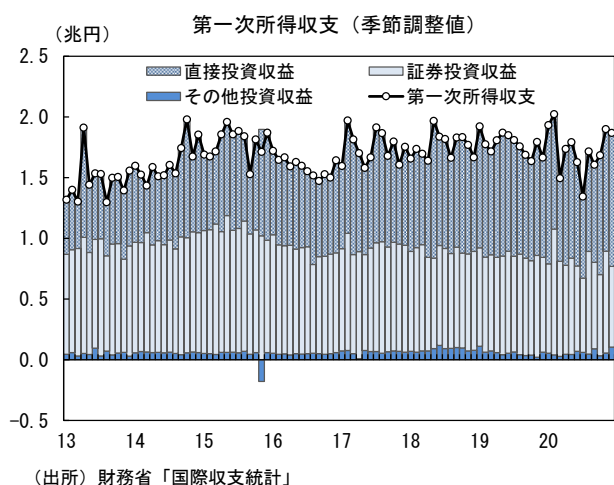
### ○先行きは輸出の増加ペース鈍化を受け、経常黒字の拡大基調は一服

1月の経常収支についても、引き続き前年を上回る黒字となる可能性が高い。1月の貿易統計上中旬によると、輸出が前年比+9.8%、輸入が同▲2.9%となった。これをもとに試算をすると、1月の貿易収支は赤字幅が縮小する見込みである。貿易収支の改善を主因に、経常収支は前年比で黒字幅が拡大するとみられる。

先行きについても、第一次所得収支が堅調に推移するほか、中国、米国向けを中心に輸出の底堅い推移が見込まれる。もっとも、ペントアップ需要の剥落などにより、輸出の持ち直しのペースは20年10-12月期から鈍化する見込みである。また、19年に大幅な黒字となっていた旅行収支については、引き続き低迷が見込まれる。各国で新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいるものの、変異種の感染拡大などまだ感染収束の目途はつかない状況で、引き続き訪日外客の本格的な受け入れには時間がかかる見通しだ。

1-3月期も第一次所得収支、貿易収支が経常収支の黒字を支えるとみられるも、20年10-12月期からの拡大基調は一服するとみられる。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。